



駒岡小学校だより

6月号

学校ではない場所で

副校長 中山 正之

学校周辺の木々の緑が濃くなりました。校内では低学年の子どもたちが鉢に植えた植物や、5年生の田んぼの稲が順調に育っています。暑さも徐々に増してきて、夏が近づいていることが感じられます。

駒岡小では5月から6月にかけて、高学年の宿泊体験学習が実施されます。4年生は愛川、5年生は赤城、6年生は日光へそれぞれ出かけます。どの学年も楽しく充実した活動になるように、4月からしっかりと準備を進めていました。この学校だよりが出る頃には、すでに6年生と4年生が体験学習を終えています。残る5年生も全員が元気に参加し、多くのことを吸収して帰ってきてほしいと思います。

横浜市の公立小学校では現在、4年生から宿泊行事を行う場合が多いようです。そういえばと、自分が小学生だった頃の様子を思い返してみました。もう40年近く前のことになります。福岡県の小倉で育った私が小学生だった頃、小学校の宿泊行事は5年生の校内キャンプと6年生の別府、熊本への修学旅行でした。修学旅行はいわゆる九州半周コースで、このとき初めて阿蘇山や熊本城を見ました。小倉城に比べて熊本城は大きいなあと思ったのを覚えています。この時の思い出は、すべて良いものとして残っています。

一方、校内キャンプはあまり良い思い出がありません。夏休み開始早々に行われ、たしかお米を持って学校に行ったと思います。夕立の中、校庭でずぶ濡れになってカレーライスを作り、あまりおいしくないと思いました。お風呂の代わりはプールのシャワーだったはず。夜は男子全員が体育館で寝ました。消灯後、ただでさえ寝苦しいのに若い男性の先生が全員に怪談を聞かせました。これでなおさら眠れなくなり、私と同じグループの数人の友達がひそひそと話をしていたら、おとなしく寝ていないとグループ全員が外に呼び出され、リーダーの私はその先生にこっぴどく叱られました。今では笑い話ですが、当時は何となく釈然としませんでした。

宿泊行事は、学校以外の場所で行うということ、それ自体に意味があるように思います。たくさんの友達や先生と知らない土地へ出かけ、多少緊張しながらも賑やかに過ごす。それが一番大切なことだと思います。もし5年生の時のキャンプが学校以外の場所だったら、私達が作ったあの薄すぎるカレーも、違った味に感じられたかもしれません。駒岡小の子どもたちにはそれぞれの体験学習で、学校ではない場所で楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思います。

